

	学校名	校 長	学級数 児童・生徒数	「一人一人の子供が主語となる学校をめざして」
小 学 校	池田小学校	大堀 和美	21学級 383名	主体的に考え、学びを深めることができる児童の育成 ～自分の考えをもち、自分のことばで表現する授業の実践(支援教育の視点をもって)～
	田中小学校	三浦 正嗣	23学級 484名	わかった・できたに喜びを感じ、自ら学ぶ児童の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～
	長田小学校	樋上 督夫	8学級 88名	知・徳・体の調和のとれた児童の育成とともに、学びに向かう力を育てる
	粉河小学校	岡田 明彦	12学級 208名	自ら考え、ともに学び、高め合う児童の育成 ～探究的・体験的な活動を意識した授業づくりを目指して～
	竜門小学校	小栗由季子	8学級 80名	ふるさと竜門の大地を愛し、自ら学び、考え、行動する子どもを育てる ～よりよい学びを自ら選択できる子どもの育成～
	川原小学校	榎戸 多恵	5学級 38名	自分の考えを持ち、表現できる児童の育成
	名手小学校	神藤 香	11学級 168名	主体的・対話的に学ぶ子どもの育成を目指して
	上名手小学校	淡路 宏昭	5学級 26名	一人一人が学ぶ楽しさや達成感を感じられる授業づくり ～協働的な学びによって深める授業～
	麻生津小学校	北山 力也	3学級 12名	主体的・意欲的に学び活動する児童の育成 ～一人一人の個性や能力を伸ばす少人数教育の充実～
	安楽川小学校	深田 昌良	17学級 252名	学ぶ楽しさ、分かる喜びが実感できる子どもの育成 ～子どもの主体的・対話的な学びを通して～
	調月小学校	上野 美幸	7学級 49名	主体的に学ぶ児童の育成 ～各教科で話す聞く力を活かして、自主的に学習できる子供を育て、 単式・複式教育の充実を図る～
	丸栖小学校	仲谷 俊哉	8学級 119名	自らの成長を目指し、主体的に表現できる児童の育成 ～学びを楽しむ子どもの姿を目指して～
	西貴志小学校	石丸 岳志	16学級 283名	自分の思いや考えを表現する力の育成 ～読む活動を通した協働的な学びの実現～
	中貴志小学校	椿本 雅敏	13学級 263名	一人一人が考えをもち、主体的・対話的なかわりのある授業づくり ～各教科の専門性を生かして～
	東貴志小学校	山本 敏幸	9学級 89名	主体性と協調性を備え、自らの未来を拓き、たくましく生き抜く児童の育成
中 学 校	打田中学校	三嶋 和哉	17学級 385名	主体的に考え、表現し、朗らかに学び合う生徒の育成
	仙溪分校	三嶋 和哉	2学級 6名	「つかむ・考える・乗り越える」 自立支援の視点に立った授業のあり方～自己肯定感を高めることをめざして～
	粉河中学校	舩津 真理	11学級 236名	「いろいろな人の生き方や考え方に触れる道徳教育の充実(2年次) ～多面的・多角的にとらえ、自ら生き方を探し学んでいく力を育てる～」
	那賀中学校	松下 裕充	7学級 129名	生徒一人一人に寄り添い、自主・自立をめざした教育の実践
	荒川中学校	杉本 和彦	9学級 161名	生徒も先生も誰が楽しめる学校づくり 「楽しい、分かる、できる」が実感できる授業の推進
	貴志川中学校	山田 浩史	17学級 430名	『学習の体系化における「学習に向かうために必要な基礎的な知識・技能(4R)」 を意識し、基礎基本の習得を目指した生徒が主語となる指導方法の工夫改善』

「一人一人の子供が 主語となる学校教育の実現をめざして」



紀の川市教育委員会
教育長 鍋田 泰延

紀の川市では、2021(令和3)年の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」をうけ、「一人一人の子供が主語となる学校教育の実現をめざして」をテーマに今年度もさまざまな取組を進めていきます。

急激に変化する時代の中で、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識するとともに、さまざまな場面において主体的に考え、判断し、自らの未来を切り拓いていく力を身につけていくことが求められます。

そして、このような力を育むことができる学校、子供たち一人一人に寄り添い、強い信念をもって向き合うことができる学校づくりを進めていかなければなりません。

「一人一台端末やICT機器を有効活用した授業の実践」「学校図書館の利活用の促進」「ふるさと教育の充実」を継続的に取り組み、「授業改善プロジェクト」や「小学校教科担任制」などの取組も推進していきます。

「授業改善プロジェクト」では、子供たちが主体的に学ぶ授業づくりをめざして、研修や研究授業・研究協議を充実させていきます。教職員も学習者の一人として、新しい知識技能の習得に努め、日々の経験や他者から学んだことを、自分自身の学びへと深化させ、指導力、授業力の向上につながるよう取り組んでいきます。

「小学校教科担任制」は、教員が特定の教科研究に専念できることで専門性が高まり、子供たちの学力向上につながることで、複数の教員で子供たちを見守ることにより多面的な児童理解ができること、指導形態などによる中1ギャップの解消が図れること等のメリットが考えられます。各小学校の実情にあった教科担任制を実施し、子供たち一人一人のよさや可能性を見だし、伸ばしていけるよう努めます。

紀の川市教育委員会は、学校・保護者・地域が連携体制を強めていけるよう協力、支援していきます。学校教育が全ての子供たち、そして、子供たちの学びを支える教職員にとってもウェルビーイングを高め、実現できる場となるように、力を尽くしていきたいと考えています。



粉河中学校



貴志川中学校

令和6年度紀の川市立小中学校「瞳きらめく学校推進事業」の研究指定を受け、研究・実践に取り組んだ2校



「豊かな心」「たくましい体」の育成

人権教育や道徳教育の充実に努めるとともに、読書活動やさまざまな体験活動を通じて子供たちの豊かな心を育みます。学校保健活動、体育的活動、食育などの取組により、たくましい体づくりを推進します。

特別支援教育の充実

障害者基本法、障害者差別解消法等の関連法改正が進み、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた取組を行っています。

紀の川市では、平成26年度から早期支援コーディネーターを配置し、学校やこども課とも連携、情報共有して就学前の子供たちの発達や小学校入学後の支援体制を整えていきます。

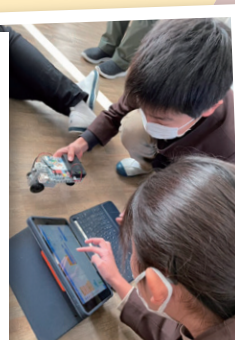
また、学校では、子供たちが安心して学べる学習環境づくりと支援に努めます。



紀の川市では、通級指導教室として、竜門小学校、中貴志小学校に「さぼーと教室」、田中小学校に「ことばの教室」を設置し、子供たちの学びに向かう力をサポートしています。

確かな学力の向上

「先生が教える授業」から「子供たちが学び取る授業」への転換が求められます。学習指導要領を着実に実施し、子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実」をめざして、一人一台端末やICT機器も有効活用しながら授業改善を進めていきます。



教員の指導力・授業力の向上

社会の変化が加速する中で、教員自身が専門職としてたゆみなく新たな知識技能の習得に取り組み続けなければなりません。教員が、探究心をもちつつ主体的に学び続ける姿勢は、子供たちのロールモデルとなります。子供たちのための授業づくり、子供たちが主体となる授業づくりをめざして、研究授業や研修に取り組みます。

地域とともにある学校

未来を担う児童生徒の豊かな成長と、ふるさとに愛着をもつ児童生徒を育むために学校運営協議会や地域の協力を得ながらさまざまな取組を進めます。



幼児教育から義務教育への連携

「小1プロブレム」「中1ギャップ」を解消するため、スムーズな連携に向けた取組を進めます。保育所、こども園、幼稚園と小学校の交流、小学校と中学校の授業による交流や合同研修に取り組んでいきます。

